

会 議 録

会 議 名 (付属機関等名)		令和2年度 川西市介護保険運営協議会 生活支援体制整備部会(第8回第1層協議体兼地域ケア推進会議)		
事務局(担当課)		福祉部 介護保険課		
開催日時		令和2年11月25日(水) 15:30～17:15		
開催場所		川西市 消防本部・南消防署合同庁舎 3階 大会議室		
出席者	委 員	細見 幸己、北村 俊雄、岩井 健、大矢根 秀明、有田 洋子 吉川 泰光、高田 憲二、片岡 大雅、元山 純一、西本 裕子 細海 里恵、貞松 喜代美		
	そ の 他	健康増進部 健幸政策課 佐藤課長補佐		
	事 務 局	福祉部 山元部長 介護保険課 福丸課長 松永課長補佐 山本主査 川原主事		
傍聴の可否		可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1.開会 新部会員の就任の紹介 2.協議事項 (1)ポイント制度について (2)ポイント制度以外の人材確保について 3.その他 次回の開催について 4.閉会		
会議結果		別紙審議経過のとおり		

審 議 経 過

事務局	<p>それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和2年度川西市介護保険運営協議会生活支援体制整備部会(第8回第1層協議体兼地域ケア推進会議)を開会いたします。</p> <p>私は、本日司会を務めます福祉部介護保険課課長補佐の松永でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、委員の皆様方には何かとご多忙のところ、ご参集を賜り誠にありがとうございます。</p> <p>まず始めに、さきほどもご説明させていただきましたが、新型コロナウイルス感染症対策として、お席に除菌シートを置かせていただいておりますので、ご自由にご利用ください。</p> <p>また、本日の会議録を作成するにあたり、録音させていただきますのでご了承ください。なお、会議録の確認については、副部会長に一任とさせていただきます。</p> <p>ではここで、本部会のみご出席の委員もいらっしゃいますので、新たに就任いただいている委員をご紹介します。</p> <p>市議会の役員改選に伴い、議会選出委員に異動がありました。今回より、江見輝男委員に代わり、大矢根 秀明委員にご就任いただいております。大矢根委員、一言ご挨拶をお願いいたします。</p>
部会員	<p>川西市議会厚生文教常任委員長の大矢根でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>また、本日ポイント制度について皆様にご協議いただきます際、複数ご意見としていただいております「健幸マイレージ」についてご説明させていただくため、健幸政策課佐藤課長補佐が出席しております。よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本日は小田部会長が急遽欠席のため、細見副部会長に議事進行をお願いいたします。それでは、これ以降の議事進行につきましては、細見副部会長よりよろしくお願いいたします。</p>
副部会長	<p>それでは、委員の出席について、確認させていただきます。</p> <p>委員の出席については、委員14名の内、本日ご出席をいただいておりますのは、12名でございます。</p> <p>よって、川西市介護保険運営協議会規則第3条第4項の規定に基づき、本日の部会は成立しております。皆様の活発な意見交換を、ぜひともよろしくお願いいたします。</p> <p>傍聴の方はおられますか。</p>

事務局	傍聴の方はお越しではありません。
副部長	では、議事に入ります前に、事務局より資料の確認をお願いいたします。
事務局	<p>それでは、資料の確認をさせていただきます。まず、本日の会議の次第としまして、「令和2年度川西市介護保険運営協議会生活支援体制整備部会(第8回第1層協議体兼地域ケア推進会議) 次第」、「川西市介護保険運営協議会生活支援体制整備部会委員名簿」、次に当日配布資料としまして、健幸政策課より「かわにし健幸マイレージ2020新規参加者募集」をお配りしております。</p> <p>次に、事前送付資料としまして、資料1-1から1-3「協議事項に対する意見書のまとめ」、資料2「ボランティアポイント制度の検討経過について」、資料3「健幸マイレージ案(介護予防教室などの通いの場をメニューに追加)」、資料4「電子によるボランティアポイント制度付与の検討結果について」をお送りしております。</p> <p>皆様、資料はお揃いでしょうか。</p>
副部長	それでは、次第2、協議事項「ポイント制度について」の協議に入らせていただきます。まず第1層コーディネーターであります細海部会員より検討結果の説明をお願いいたします。
第1生活支援コーディネーター(以下、第1層Coとする)	<p>それでは、ボランティアポイント制度の検討結果をご報告させていただきます。事前にお送りしました資料をご覧くださいながら、お聞きいただきたいと思っております。</p> <p>まず、継続できるボランティアポイント制度を導入するにあたり、申し込みやすく、ポイント付与がされやすく、利用しやすいものということで検討してきましたが、事前送付資料4「電子によるボランティアポイント制度付与の検討結果について」において、電子マネーやQRコード、マイナンバーカードの利用には周辺機器やインターネット環境が必要であることや、ポイントの交換や申請をする必要があり、現状のシステムでは使いやすいものがなく、難しいと感じました。</p> <p>いくつかの民間企業にヒアリング等を行いました。現時点では時期尚早であるのではないかと感じております。</p> <p>ただ、今後に期待できるのではないかと考えているので、この後、佐藤課長補佐より説明がありますが、健幸マイレージのメニューに載せたとしても、皆様には、引き続き地域活動に対するポイント制度の検討などをしていただければと思っております。</p> <p>健幸マイレージについては佐藤課長補佐から説明がありますが、そもそも人材確保の課題として、地域活動に参加していただくきっかけをつくるためにということでボランティアポイント制度を考えたのですが、この健幸マイレージのメニューに載せるということは、そもそもの趣旨とは違っているのかもしれない。</p> <p>ただ、健幸マイレージは出向がなくても申し込みができたり、歩数計の数値をコンビニでデータ送信できたりと、利用しやすいものが考えられていて、健康づくりに関しては皆様と共有できる1つの案ではないかと思ひ、今回、佐藤課長補佐にお</p>

副部長	<p>越しいただいていますし、資料3として健幸マイレージ案を作成しております。</p> <p>ご説明が終わりました。ご質問がございましたらお願いいたします。</p>
部会員	<p>今、説明いただきましたが、ボランティアポイント制度について、マイナンバーカードを連携させるのは早いのではないかとありますが、国としてIT化を進めているこのタイミングでやれば、選択肢の候補になるという考え方がなかったのかなというのは、少し気になるころではあります。</p> <p>そういう選択肢もあって、その中で選ばれる方がよりいいのではないかと思のですが、いかがでしょうか。</p>
第1層 Co	<p>総務省のホームページを拝見したところ、まだ国も検討中であって、マイナンバーカードにマイナポイントが付くことは、現在テレビコマーシャル等で行われていますが、自治体ポイントとして、例えば地域で活動した場合、ポイントの付与のしやすさについて検討中であり、スマートフォンのアプリ等を含めて、今後検討されていくようなので、先ほども申しあげたように、まだ今の時点で決めるのは時期尚早であると判断をさせていただいております。</p> <p>ただ、今後も調査を続けたいと思っていますので、良い案や様々な物事が進めば、随時、皆様に報告させていただいて、協議させていただけたらと思いますが、現時点では結局紙スタンプの利用、ポイント交換のために窓口へ出向く、様々な機器が必要等、決して地域活動に関するポイントは使いやすいものになっていないのが現状です。</p> <p>以上です。</p>
部会員	<p>ありがとうございます。</p> <p>ポイントという1つの制限もありますので、なかなか活用のしやすさに繋げるのは難しい点があったかと思われませんが、マイナンバーカードは、今後、様々な活用面も進んできたりという状況も見えていますので、そのあたりはしっかりとまた研究していただいて、こういったものでも活用しやすいとか、こういう活動がしやすくなるということがわかってくると思うので、引き続き検討をお願いしたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
副部長	<p>マイナンバーカードの利用範囲をこれからも検討されるということで、難しいことかと思われませんが、引き続き頑張ってください。</p> <p>他にご意見はございますか。</p>
部会員	<p>冒頭の説明にあったように、人材確保のために一度ポイント制度をやってみようということで、既存の健幸マイレージに載せられるかというところで検討を進めてきたと思いますが、今回の資料の中で様々な意見をまとめていただきましたが、やはり人材確保をするためにどうしたらいいのかが課題だと思います。健幸マイレージ</p>

	<p>の説明も後であると思いますが、あくまでもこの健幸マイレージというのは個人レベルの健康増進なので、そこに介護予防の観点と、足していくならば、健康値と介護予防ということになると思います。</p> <p>それはそれとして、今おっしゃったように、人材確保のための制度ができるようなボランティアポイント制度やその他の案を、じっくり議論すれば良いのかなと思います。</p>
副部会長	<p>他にご意見はございますか。</p>
部会員	<p>健幸マイレージの方で、私も携帯のアプリでさせていただいていますが、本来、民間企業でされている分については、フォローが手厚いのですが、その点はあまりないかなと思うので、継続性を向上させることが課題だと感じます。</p> <p>また、イベントの紹介や情報提供などが定期的に連絡される等のフォローがあれば良いのにはと思います。現実にはあまりなく、自主的に情報やメニューを探さないといけない。</p> <p>本来は、登録さえしておけば、自動的に様々な情報が提供され、それによって忘れていたり、新規事業に気づいて参加してみたりできるようにする取り組みも、フォローという意味でやっていけたらと、今後ご検討願えればと思います。</p>
第1層 Co	<p>先ほども申しましたが、健幸マイレージのメニューに載せるからと言って、ポイント制度は引き続き、皆様と協議をしていき、できる限り使いやすいものと考えております。</p> <p>その際に、例えば、SNSを利用した地域活動のお知らせ方法等、本当に使いやすいものを考えていけたらと思っておりますので、何か良い案がありましたら、皆様でご協議をお願いいたします。</p>
部会員	<p>ありがとうございます。</p> <p>逆に自分が住んでいる地域の情報や、人材確保に繋がるということで、地域限定で情報を配信できたら、そういうのが1つのきっかけになって繋がるケースもあります。そういうことも踏まえて、ご検討願えればと思います。</p>
副部会長	<p>ポイント制度については、活性化や人材確保に役立つと思います。ぜひ、活用出来たらと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>それでは健幸マイレージの件についてご説明いただきますので、よろしくお願いします。</p>
第1層 Co	<p>申し訳ありません。ご説明の前に、お手元の資料をご確認ください。資料3をご覧いただきながらご説明をお聞きいただけたらと思います。よろしくお願いします。</p>
副部会長	<p>それでは、健幸マイレージについて、ご説明をお願いします。</p>

健幸政策課

皆様、改めましてこんにちは。川西市健幸政策課の佐藤と申します。

私のほうから、健幸マイレージ制度について、ざっくりとご存じの方もいらっしゃると思いますので、どういうことをしているのか、ご説明させていただきます。

例年は6月に新規で募集をしているのですが、新型コロナウイルスの影響で1ヶ月ずれたという形で、今年は7月にやっております。

お手元の資料でお配りさせてもらっています、「川西健幸マイレージ2020新規参加者募集」の応募用紙につきまして、制度も含めてご説明したいと思っております。

そもそも、健幸マイレージをご存じでない方もいらっしゃるかと思います。

何をしているのかと言いますと、こういう歩数計を付けていただいて、皆様の日常で、歩く習慣をつけていただくということで、平成27年からやっております。

今現在、今年の参加者を含めて、約4,800名の方が参加されています。

川西市の人口規模が15万と少力で、約5,000名ということなので、人口の約4%の方が参加されております。

この歩数計ですが、基本的に趣旨としましては、皆様の運動習慣 外に出て歩くこと をメインとしておりますので、募集用紙の1番上に書いてありますが、歩くことによって健康づくりのきっかけにさせていただきたいなという思いでやっております。

健幸マイレージの参加につきましては、現在30歳以上の市民の方が応募いただけまして、2年前までは、40歳以上の市民の方が対象でした。

若いうちから健康づくりに対する意識を付けていただきたいの思いから、年齢制限を当時の40歳から30歳へ繰り下げて募集しているところです。

毎年1,000名募集しておりますが、今年は1,155名の方にご応募いただきまして、今現在やっております。

新型コロナウイルスの影響もありまして、通常、健幸マイレージに参加する際には、会場を借りて集団説明会をしたうえで、参加費を徴収して制度の内容を説明し、皆様に「どういった取り組みをしていただきたいか」、「どういったポイントが付くのか」等を説明していたのですが、集団説明会が第2波の影響で実施するのがなかなか難しいことから、今年度から参加者の方に自分自身で動画を視聴していただいて、繰り返し事業内容をご説明させていただいて、事業に参加していただくということで、より自主的に参加いただけるような制度に変更しております。

しかし、健幸マイレージの参加者の年齢が、大体60歳以上、70~80歳の方が概ね7割以上参加されていますので、年配の方でスマホとかパソコンを使える方も多数いらっしゃいますが、やはり物理的なところで、若い方がスマートフォンを持っていたり動画を視聴できる環境にいる方がおられますので、動画を視聴できない方に限定して、ごく少数で別途説明会 動画を視聴できない方、制度が良くわからない方概ね100名 を開きました。

歩くことをメインとしていますが、次のページを見ていただいて 介護保険課においてもポイント制度が肝かなと思いますが、マイレージとはどういったポイントが付くのかを、簡単に説明させていただきます。

説明資料をお開きいただいて左側の真ん中に「ポイントをためる」という項目が書かれています。

現在、ポイントをためる方法が5つあります。詳細はなかなか難しいので簡単に言いますと、まず基本的に健幸マイレージは歩くことですので、年齢によって異なりますが、月の平均歩数によってポイント付与されます。これが一番のメインとしています。

次に、今回の会議の趣旨かなというところの、「参加する・行きましたポイント」という項目が書いてあります。

これは何かと言いますと、書いてあるとおり、市内の民間施設、スポーツ教室、行政の運動に関するイベントに参加された方に、その都度10～20ポイント付くというのが「いきましたポイント」の制度になります。

現在そのポイントの対象になっているのが、地域コミュニティの中でされている、ハイキングやウォーキングといったスポーツに絡むイベントを、各地域団体や民間にポイントになるような事業がないかを年に2回取りまとめまして、このような「行きましたポイント対象事業一覧」を皆様にお配りして、自分の地域にある事業に参加いただいてポイントが付くという制度となっております。これが2つ目です。

後は、「変わりましたポイント」ですが、基本的に歩くことによって何かしら健康になっていただきたいと思っていますので、自分の体の状況を知っていただくということで、基本的にはBMI 肥満指数 であったりとか、65歳以上の方でしたら、BMIよりも筋肉率が非常に大切であると思いますので、筋肉率が標準値であれば、ポイントを付与したりとか、例えばBMIが多くて肥満気味かなという方も、改善すればポイントが付与されます。

健康づくりの中に予防効果というのも当初から考えておりまして、できるだけ皆様に病気の早期発見をしていただきたいという趣旨で、検診を受けられる方に「(検)診を受けたよポイント」という項目を挙げております。

先ほども部会員からもご指摘がありました。自分だけで健幸マイレージを続けていくと、どこかで頓挫してしまうこともあるので、毎月データを送信していただければ、「継続したよポイント」というのを付与します。以上、5つのポイント制度を実行しております。

なお、さきほど紹介した歩数計 + スマホのアプリを使って参加できます。

毎回データを送信する作業が必要ですが、スマホのアプリの方は、Wi-Fi環境やデータ送信できる状況でしたら、どこでも送信できます。

ですが、この歩数計につきましては、30日分を記録できますが、自動でデータを送信することができませんので、公民館、保健センター、アステ市民プラザに置いてあるデータ送信用の機械を使って、送信する形となります。また、ローソンに設置してあります「Loppi」を利用して、全国どこからでもデータを送信できるようにしておりますので、利用しやすい制度だと思います。

さて、健幸マイレージについては、私ども健幸政策部門として目指すべきところが、医療費の抑制と介護リスクの軽減の2つであります。ですが、この主な目標を目指しているところに加えて、現場の担当としましては、やはり新型コロナウイルス

の影響もあり、地域に出て行く習慣が身につかないので、昨日も、兵庫県知事が高齢者と基礎疾患がある方は不要不急の外出を控えましょうと言われていたが 私どもからすると、安全対策を徹底したうえで、できるだけ外に出たいと思っています。

また、マスコミ等に報道されていませんが、自粛することによって、特に高齢者の方はフレイルがかなり問題になってくるのではないかと思います。

今年の3月ぐらいから緊急事態宣言が発出され、年配の方が外出できない期間がありましたので、1年後ぐらいに、フレイルによる影響が出てくると言われています。

そういったことも含めて、私どもはこの10月から、ポイント制度+国の地方創生臨時交付金を活用しまして、毎月平均5,000歩に達したら、500ポイントを付与するという、独自のイベントもやっております。できるだけ皆様に「少し出て歩いてみようかな。」と思ってもらえる制度を常に考えながらやっている次第です。

また、宣伝効果もあり、毎年参加者が増えていきますので、行政だけでは対応できないところもありますので、なるべく地域の方にお手伝いいただきたいと思っています。

とは言いましても、地域の方でも行政から様々なお願い事をされており、多忙であると思いますので、現在おこなっているのが、募集要項を開いて右側に記載しております、「歩いた分だけ地域貢献もできます」というものです。

健幸マイレージは、2年間だけポイントが付く制度で、その期間で運動習慣を付けていただくのですが、その後に運動習慣が定着した+皆様が歩いた自分のポイント分以外に、自動的に参加者のお住まいの地域コミュニティに、8,000歩歩けば1ポイントが付く、「地域健幸応援金」というものを昨年度創設しました。本人も健康になるし、地域のお金が増えて、その「地域健幸応援金」を地域の健康づくりの取り組みに使ってくださーいというような制度設計で実施している次第です。

ただ、健幸マイレージには様々な課題がありますので、質問もあるかと思いますが、私どもとしては、健康づくりのきっかけになっていただきたいという思いでやっておりますので、よろしくお願いいたします。

説明は以上となります。

副部長

ありがとうございます。健幸マイレージについて、ご説明いただきましたが、何かご質問はございませんか。

部会員

健幸マイレージの案なのですが、定員が1,000名という形のままですと、ボランティアを目的で入ろうと思っている人と、いわゆる健康を目的に入ろうと思っている人と競合してしまうと、結局健幸マイレージに載せたとしても、ボランティアをやる人がどれぐらいいらっしゃるかがわからないと思いますが、そのあたりはどのようにお考えでしょうか。

もう一つ、ボランティアポイント的な部分で考えるのであれば、ボランティアをするために、参加費としてお金を先に払うとなると、誰も参加しないのではないかと思います。

<p>第1層 Co</p>	<p>ます。</p> <p>最後に健幸マイレージのポイント付与の期間が2年間ということが、いわゆる足かせになってしまう可能性があるかもしれません。ボランティアをして、少し慣れてきても、例えば介護施設で配膳のお手伝いなどをしてくださる方ができても「2年経過してポイントが入らないのでやめます。」となると、「せっかく色々できるようになったのに。」となってしまうあたりは、すり合わせが必要なのかなと思います。</p> <p>私が先にお答えさせていただきます。</p> <p>そもそも、地域活動に対してのボランティアポイントを付与することと、健幸マイレージのメニューに載せることは、私の中では分けて考えております。</p> <p>ですが、健幸マイレージのメニューに載せることは、健康づくり以外に地域活動例えば通いの場 に支援したり参加したりするきっかけになると思います。</p> <p>なので、ボランティアをしたいと思っている人が、健幸マイレージに何人申し込んだかというよりも、通いの場の支援者、参加者が健幸マイレージに参加したら、ポイントが付与されるようになった+歩いてポイントが付くようになった、逆に今まで歩くことで健幸マイレージのポイントが付与されていた方が、通いの場へお手伝いに行っても、参加してもポイントが付与されるようになって、歩くだけではなく地域活動にも貢献するという広がりがあればいいと考えています。</p> <p>なので、健康づくりを目的にしている方 名、地域活動を目的としている方 名という考えにならないようにと思っています。</p> <p>あと、参加費の件ですが、これはボランティアに参加するためではなく、自分の健康づくりのための参加費として捉える+通いの場に参加することで、歩くこと以外でポイントが付与されるということなので、ボランティア活動をするのに参加費が必要になるということは少し違っていると思います。</p> <p>ポイント付与が2年しかなく、それが足かせになることも1つありますが、先ほども申し上げましたが、ポイント制度についても調査をしておりますが、時期尚早でなかなか使いやすいものが見つかっておりません。その2年間の間にも、協議や検討を重ね、新たなポイント制度を私たちの中で考えることができたかと思っております。1つ、ポイントが付与されないならボランティア活動をやめるということがない啓発ができればいいと思っております。ポイントを付与されるために活動するわけではなく、活動をしていることの励みとして付与されるということで、「ポイントが付与されなければやめる」と思われる啓発はしたくないと思っています。</p>
<p>部会員</p>	<p>人材不足を解消するための手段として、ボランティアポイント制度の導入を考えしてきたわけで、人材不足となっているのは、いわゆる介護の現場や、介護保険制度で賄えないところの支援を求めている方に対してなので、継続的にボランティア活動をしていただきたい。</p> <p>ただ、していただきたいという思いはありますが、担い手がなかなか見つからない 法的な部分になると、資格が必要である等 ことを考慮すると、継続性が求められると思います。啓発して もちろん、「最初の2年間はポイントが付与されま</p>

<p>第1層 Co</p>	<p>すが、3年目以降はポイントが付与されませんが、継続してくださいね。」と周知したうえで やってくれる方が見つかるのであれば、人材不足になっていないはず です。</p> <p>あと、先ほどの質問で出たのが、ボランティアポイント制度の検討で、健幸マイレージとマイナンバーを結び付けるのが時期尚早で難しいため、今回、健幸マイレージについての案を協議するという事なので、このボランティアポイント制度の案として、健幸マイレージに便乗するという部分で考えると、この紙面に掲載されていないボランティアをした時の付与ポイントを、別途で設けないといけないと思います。</p> <p>初めに申しましたように、健幸マイレージに参加するというのが、そもそも考えていたポイント制度の趣旨から外れているのは、もちろん承知しております。</p> <p>ただ、地域活動や歩くこと、健康づくりのきっかけの1つになることに変わりはなく、今通いの場を支援されている方、参加されている方に対して、すべての活動ではありませんが、きっかけづくりとして提案することができる案として挙げています。</p> <p>健幸マイレージのメニューに載せたから、ポイント制度を検討しないということではなく、私たちが考えている地域での活動に対するポイント付与というのは、また別の形で考えていくものであり、健幸マイレージにすべての地域活動のポイント付与をすることを目指しているわけではありません。健幸マイレージは健幸政策課が行っている事業なので、私たちは別のものを考えていければと思っております。</p>
<p>第2層 生活支援コーディネーター(以下、第2層 Coとする)</p>	<p>ボランティアと専門職の代替を、切り離して考えたほうがいいと思います。</p> <p>ボランティアはあくまでボランティアであって、市民の方に専門職の代替をお願いするということであれば、今考えている物ではなく、もっとしっかりとした案を考えていかなければいけないと思います。</p> <p>今回は、「ボランティアの人材」ということですが、ボランティアは主体性が大事になります。それがないと継続できませんし、そういう意味では、健康づくりや介護保険の介護予防事業についても、結局主体性がないと有効ではないということと同様です。主体性が大事なので、あくまでも健幸マイレージにボランティアポイント制度を便乗させるというのはきっかけづくりであって、主体性を持ってボランティアに参加してもらうことで、意義があると考えます。</p>
<p>部会員</p>	<p>今のお話を聞いて思ったことは、今回の健幸マイレージはボランティア案件にポイントが付与されて、 ボランティアをしたことがない人が、ボランティアを一度体験してみたい、どんな内容があるのかを知るきっかけとしてポイントを付与して きっかけをつくらうという部分と、専門的なボランティアを育てるといのは、また別で制度をつくらないと難しいと思います。この健幸マイレージにボランティア体験みたいな感じで、「あなたもやってみませんか」と周知して、それからポイントを付与するのが少し微妙な感じはしますが、ポイントを付与するというキーワードでうまく繋げ</p>

られるかは、健幸マイレージの打ち出し方次第だと思います。

なので、ここにボランティアの背景的なニュアンスのものを少し含ませないと、多分繋がらないだろうなっていうのは非常に感じます。

ただ、逆に言うと、本当にボランティアポイント制度をやろうと思うのであれば、色々なボランティアを一度、整理して、登録制で希望するボランティアを実際にできて、それに対してポイントを付与するという形で、別メニューでやれば明確になり、利用する方も、ボランティアを1回やってみたいけど、どんなものがあるのか、どう手順を踏めばいいのかわからない等思うので、行きやすい環境にするために整理したほうが良いと感じます。

健幸マイレージと一緒にすると曖昧になって、ボランティア人材の育成が、少し難しいと感じます。それと、ポイントだけで繋がっているという点が、課題かなと感じました。

第1層 Co

ありがとうございます。資料3の「目的」という項目をご覧ください。

健幸マイレージの「行きましたポイント」に、介護予防教室やサロンなどの通いの場を加え、支援者・参加者へポイントを付与することが、健幸マイレージでは可能ではないかということで、この話をしておりました。既存の健幸マイレージの参加者の方が、先ほど申し上げた介護予防教室等の通いの場を知り、参加されたり支援されたりしていただけるのではないかとというのが1つ。もう1つは、今まで通いの場の支援者や参加されていた方が健幸マイレージのメニューに参加することで、健康づくりに参加できるきっかけになることです。

この2つから、地域の通いの場が活性化するのではないかとということで、健幸マイレージを提示させていただきました。

なので、地域活動に関しては、この資料の表でまとめたものを皆様と協議するのではなく、今後、調査をして検討や協議を重ねながら、使いやすいポイント制度、地域活動に付与できるポイント制度を皆様と考えていきたいと思っております。

健幸マイレージに関しては、健幸マイレージのメニューに載せるか否か皆様と協議させていただきたいと考えています。

後ほど、健幸政策課から通いの場に対して、どうすればポイントが付与できるのか等を説明いただきますので、この「目的」の項目に関してご質問があれば、ぜひお願いしたいと思います。

部会員

目的については、多分啓発の部分が一番大きいと思われます。

先ほど、介護保険事業計画の素案をいただいた時に、「国の交付金の終了等を見据えた、新たな財源の確保に努め、今後も継続可能な制度にしていく」という表現がありました。健幸マイレージの継続性とは、どういうものなのかをお聞かせ願いたい。あと、毎年1,000名の枠があるということですが、例えばメニューを増やすのに伴い、定員を1,500名や2,000名に増やすとなると、事業費が膨らみますので、そのあたりの見込みがどうなのかということ。それから先ほどもお話の中で、60歳代以上の方が7割以上を占めているということであれば、まさしくこの年

年齢層が、自分の健康づくりをしながら、地域活動や介護予防教室等に触れる機会があれば、将来的にはボランティア活動をしていただく可能性があるかと思いません。

ですから、健康マイレージにそういうメニューを増やせる要素が現実問題としてあるのかどうかですね。わずか1,000名の枠ですから、地域で14地区だとすると例えば福祉委員会であれば14地区あります。単純に1,000人で割っても全然足りないわけです。なので、定員の枠も少ないのかなという感じはします。

現実的な対応となったら、単純にメニューが広がるのかは疑問に感じます。その辺は担当課で継続性の問題と、メニューを増やすことについてどう思っているのかを教えてくださいたいと思います。

健幸政策課

健幸マイレージの今後の方向性ということもありましたので、お答えさせていただきます。

先ほど冒頭でご説明させていただいたとおり、健幸マイレージ制度が順調に進んでいるとは、担当としては思っておりません。走って、行動して、改善しながら事業を進めておりますので。ただ、私どもが目指すべきものは、やはり健康づくりのきっかけにさせていただきたいということがポイントです。当然、健幸マイレージの参加者が増加すると、経費がかかってきます。今、何をやっているかと言いますと、平成30年度から内閣府地方創生推進交付金というものを活用させていただいてこれは、国が2分の1を補助してくれるものですが、かかった経費の概ね半分ぐらいのお金で事業を行っている次第です。

ただ、この交付金につきましては、最大で5年間ということ聞いておりますので、令和4年度で終わります。この健幸マイレージの継続性に関して、限られた市の財政の中でどうすればいいかを現在検討している最中です。新たな財源を持つてくことも考えましたが、なかなかそのような財源がないので、初めにお答えしました、経費はかかりますが、最終目標が医療費の抑制と介護リスクの軽減なのでこれが最終的にどこまで数値化できるかは分析が難しいとは思いますが、ゆくゆくは回りまわって自分の健康につながり市全体としては、経費を抑えられるのではないかなと考えています。

ただ、ある程度、参加者が歩いてBMI等の体の数値が変わることによって、どれだけ医療費が抑制されたかというのは、今からのことになるので交付金が終わった後、どうなるのかというのは明確にはお答えができませんが、継続していただけることによって効果が出てくると思います。

先ほどもご指摘があったとおり、これあくまでもポイント制度のきっかけとっております。私どもは平成27年度からこの事業をやっており、その時の参加者は700名でした。今現在、6年経ちまして、継続者は500名ほどおられるので、約7割の方が継続されています。

平成28、29年度から参加されている方もポイントは付与されませんが、やはり600名強の方が継続されています。中には、ポイント目当てで参加される方もいらっしゃいます。ですが、2年間やっていく中で、「ある程度身についた運動習慣とい

うものは、ポイントに代えられない」という気持ちでされている方が多いように思っています。

このボランティア制度と直接関係しているかは、私からの説明は難しいですが、やはり、何かのきっかけをつくらないと続けられないというところがありますので、1つのきっかけづくり 私どもは健康づくりのきっかけとして として連携できる部分があれば良いと思っております。

あくまでも健幸マイレージのポイントを変更することがなかなか難しいところもありますし、皆様のボランティアポイントの制度設計 連携していく必要はありますが取り入れて大きく変えるというところまでは考えておりませんので、先ほど言いました地域の介護予防教室や、何か健康に繋がるプログラムがあれば、参加者にポイントを付与したいと思います。

副部会長

健幸マイレージについての説明を頂いているのですが、これは資料3にも書いているように、参加した人に対してポイントが付与されます。

私も歩数計を付けているのですが、だいたい1日6～7,000歩ぐらい歩いています。さきほど言われたとおり、ポイントが付与されるのは最初の2年間で、あとは自分の体力づくりや活性化のための1つの手段かなと思っています。

ですので、先ほど第1層コーディネーターが言われたように、目的として、大きい枠として健幸マイレージを利用し、あとは今後ボランティア制度の検討のご意見をいただいて健幸マイレージとは少し意味が違ったボランティアポイント制度を検討するということが皆様のご意見であろうと思います。

部会員

地域包括支援センターの代表にもなるのですが、介護予防に関しては、今、健幸マイレージの中に入れていただいている介護予防教室だけです。通いの場に関してはいきいき百歳体操、「いき百」と言われているものがあるのですが、それは健幸マイレージには入れていない。今のお話でいくと、いき百は大体660人、700人弱ぐらい参加者がいて、「いき百もマイレージの対象になりますよ」と言うと、1,000人規模のすごい割合になってしまいますが、モチベーションを維持することは大変大切で、継続していただく事が大切なのですが、そこをすごく工夫して地域包括が関わっている部分を、自発的にということで健幸マイレージにいき百が乗っかってくることはすごく良い事だと思います。

なので、さきほど言われたように、事業の目的に関して、この中の3つに関しては地域包括がやっている事業 介護予防に関する事業に関して はすべて合致するので、凄く有難いと思います。

もう1つ、地域包括の中でポイント制度のことを話した時に、介護予防とか地域活動に参加するというメリットと、ちょっとした困りごと地域の中でのお手伝いとか支え合い活動の担い手、そういう地域になるようにするためのきっかけが、なにかあるのかなと。高齢の方が高齢の方を支えるのではなくて、若い方々もちょっとした隙間時間で何かを手伝えるような地域をつくっていくということが課題ではあるので、その辺りについてはこの健幸マイレージだけでいくとどうしても不足する部分

があるのは事実だと、今日お話を聞いて判りました。

なので、健幸マイレージをきっかけにして地域活動に参加をする。あとは、通いの場に行く、どこかに行くみたいな事はすごく啓発していきたいことではあるので、それをきっかけに地域のことを知っていただいて すごく遠回りなのかもしれないなどは確かに感じますけれども 地域でこんな事をしているというきっかけになるのであればそれは有りだと、今日お話を聞いて感じました。

ですけど、確かにちょっとした困り事に関する支え合い活動をこのポイントのきっかけにするには工夫がいるなど感じているところなので、そのあたり継続的にお話しして 制度がすごく変わってくる予感がしますので これだけで特に決めるのではないのであれば、きっかけという形で少し進めてみる。

でも、その後どうするかということは、それがちゃんと判るようにアナウンスをする必要性がすごく高いと思うし、そこをちゃんとしていないと、「何をやっているんだろう」という感じになるから、注意しながらですけど進めていって、健幸マイレージも走りながら制度を作ってきましたとお話があったんですけど、何もしないで全部綺麗に整ってから出来るという訳ではない気がしますので、そういう意味でいくと走りながら考えていくということが必要なのかなと感じました。

副部会長

健幸マイレージの件でご意見をいただいているところですが、「ボランティアポイント制度以外での人材確保について」ご説明をさせていただきます。この後に、まだ健幸マイレージについてご意見がある方は、のちほどご意見をいただくということでもよろしく願います。

第1層 Co

協議事項「ポイント制度以外の人材確保について」ということで、ボランティアポイント制度の導入について皆様のご意見をお聞かせいただいた後に、健幸マイレージについてのご意見をお聞かせいただく形でよろしいですか。

資料1 - 1「協議事項に対する意見書のまとめ」ですが、まず、お尋ね1「ボランティアポイント制度の導入について」ということでご意見を頂戴しました。多くの部会員の方が、「賛成」という意見であったので、本日の協議会をさせていただいているのですが、前回ご意見をいただいたとおり、このボランティアポイント制度を導入するのであれば、「目的を明確にすること」、「利用しやすく継続できるポイント制度のしくみづくりをすること」、「対象者と対象活動の決定」をして継続できるものと考えていきたいと思っております。

皆様のご意見を概ね項目別に書かせていただいておりますので、先程からお伺いさせていただいておりますように、今後もボランティアポイント制度について協議をさせていただきたいと思っております。

お尋ね2も、皆様からいただいたご意見をまとめさせていただきます。

お尋ね1及び2の項目の中の 特にお尋ね2ですが 今後利用しやすいポイント制度の協議を具体的にさせていただく時に、是非この課題等を皆様と一緒に協議して決めさせていただきたいと思います。

お尋ね3に関しましては、本日、健幸マイレージのメニューに通いの場が参加す

	<p>るのが良いのか否かを皆様とご協議させていただいた後、新たな人材確保について考えていきたいと思っております。それはポイント制度の協議とは別となります。</p> <p>また、違う人材確保をいろんな方向から見て、皆様からご意見をいただいて、そのことに関しても動き出せればと思っておりますので、健幸マイレージの皆様のご意見がまとまった後、このお尋ね3「ボランティアポイント制度以外での人材確保について」の協議に入らせていただきたいと思います。</p>
副部会長	<p>ボランティアポイント制度についてご説明いただきましたが、健幸マイレージのポイントと少し種類が違う部分があるかと思いますが、地域の活性化やボランティアに関心を持っていただくという面については、共通した部分の仕組みがあるかなと思っておりますので、健幸マイレージのポイント付与にはどういう過程があるのか、皆様からご意見はございますか。</p>
部会員	<p>今お話があった、「ボランティアポイントを付与する」ということで健幸マイレージに乗っかる。これは良いとして、その対象になるボランティアをどう設定するかが疑問でした。設定や内容をどのように健幸マイレージに盛り込んでいくのか、少しイメージが出来ていないので、その辺を少し先に教えていただきたい。</p>
第1層 Co	<p>先ほどお話をさせていただきました、お尋ね1及び2のまとめについて、地域活動に対するボランティアポイント制度の際に使われる課題でありまして、健幸マイレージとは別のものになります。ですので、本当に利用しやすいものができた時点で、協議に入らせていただきたいと思いますと思っているのですが。</p>
部会員	<p>地域活動と言っても非常に幅が広く、それとボランティアポイント制度を結び付けるとなると、この資料に書いてある介護予防教室とかサロンは1つのきっかけの入口としては別に良いと思います。健幸マイレージへ参加されている方がこういったところを知って参加していくことも、1つのきっかけになると思うのですが、地域活動と言ってボランティアという捉え方をすると、あまりにも幅が広すぎて、その辺がちょっと繋がらず、自分の中でも整理が出来なかった。今後、整理していかれるということなので、その時点でのお話になるかなと思います。</p>
部会員	<p>私の理解は、健幸マイレージにボランティアポイントを追加するとは理解しておりません。1つのきっかけづくりに 健幸マイレージのメニューがちょっと広がって、きっかけづくりに なったらいいなという結果論であって、ボランティア人材の発掘とは切り離さないと、多分駄目だなという思いがあります。</p> <p>冒頭、第1層コーディネーターからあったように、マイナンバーカードの今後の利用方法を検討されていくようなので、それもひとつの候補であろうかと思えますし、ボランティアの発掘という目的を持った何かをしないと駄目と思っています。</p> <p>そして、我々が前回思っていたのは、いやいやそういうシステムを新たに作るより健幸マイレージというシステムがあるのだから、それを借りたらいいのではな</p>

	<p>いかなという単純な発想だった。ですから、健幸マイレージに運営メニューを増やすということに関して否定はしないですけど、ボランティア人材の発掘のためのメニューは別にじっくり考えましようと思はせていますが。</p>
第1層 Co	<p>おっしゃられていますように、健幸マイレージに關しての目的は、健康づくりの中に通いの場への支援や参加が繋がるというものでそれとは別に、私どもでボランティアポイント制度の地域活動に対する付与ポイントについての協議を引き続きしていきたいという事でご理解いただけたらと思はせています。</p>
	<p>健幸マイレージに地域活動・ボランティア活動のメニューを載せるということではなく、そこを分けて考えていただいて 何年の何月にそういう制度が出来ますというものが今現時点ではお見せできないですけど 時期尚早だけれどいろいろ動き始めているので、今後も検討して協議していきたいのがボランティア・地域活動に対するポイント制度です。判りづらくて申し訳ありません。</p>
副部会長	<p>ご意見があったように、健幸マイレージとボランティアポイント制度とはちょっと違った部分があったかなと思はせていますので、健幸マイレージにオンするというは別途考へるといふことで、今後はボランティアポイント制度の方をどのように取り組んでいくかといふのをしめていけたらと思はせています。</p>
第2層 Co	<p>逆のことを言っていたら申し訳ありません。当初の目的と今回やろうとしているところはかなり違ってきてはいますが、以前から言われているように、健康づくりに何が一番効果的かといふと、今言われているのが社会貢献、ボランティアだといふられています。</p> <p>ですので、今回そのボランティアと健康づくりは別に考へるといふお話は、それはそうなのですが、そうではないといふはるか、これを新しいメニューに入れるといふ時の見せ方として、「健康づくりにボランティア活動がとて有効なんだよ」といふPRをしていただく事が、ひいてはボランティアの人材確保になる。遠回りになるよねといふお話もありましたが、啓発になると思はせていますので、PRについて考へていただけたらなと思はせています。</p>
第1層 Co	<p>地域活動に参加することと健康づくりとを分けるということではなく、この制度を考へる際に分けて考へていただいて、健幸マイレージには地域活動に参加したことにポイントが付与されるのではないといふ説明です。決して地域活動をするのが健康づくりに繋がるというところを否定しているといふことではありません。</p>
副部会長	<p>健幸マイレージの件については、これでよろしいですかね。 続きまして、「ボランティアポイント制度の導入について」のご意見をいただきたい。</p>
部会員	<p>基本的に、ボランティアポイントに關しては、結果的にはボランティアとか困り事</p>

	<p>への支援とか、例えば福祉委員活動等の社会参加の支援者側に関するポイントと、最初にポイント対象になっていたものに関しては、なかなか健幸マイレージには載せられないけれども、通いの場とかに参加することによってポイントが付与されるということに関しては、「有り」ということなのでしょうか。</p>
<p>第1層 Co</p>	<p>はい、そうですね。</p>
<p>部会員</p>	<p>なので、それは「有り」だし、後もう1つ継続的に少し違うパターン 健幸マイレージに載らないもの も継続的にするので、「無し」になったわけではなく、「有り」ということですよ。</p>
<p>第1層 Co</p>	<p>そうですね。</p>
<p>部会員</p>	<p>それでは、通いの場が健幸マイレージに参加するために、メニューを考えると、ボランティアポイント制度を引き続き協議していくということで、他にご意見ございませんか。</p>
<p>部会員</p>	<p>ボランティアポイント制度を引き続き協議していくということは、新たな制度やシステムの導入が必要になると思います。おそらく莫大な開発費用が掛かると思うのですが、その辺がよくわかりません。</p> <p>なので、ボランティアポイント制度以外の方法も考える必要が出てくるのかなと思います。ただ、マイナンバーカードをもし健幸マイレージに載せるのであれば、国の援助がある可能性があるのでは、的を絞るといえるのはいかがなものかなという感じがします。</p>
<p>第1層 Co</p>	<p>ポイント制度に関しましては、時期尚早な案が幾つか挙がっております。そのことを引き続き協議すると、ポイント制度以外の人材確保について、皆様からご意見を頂戴して協議していただきたいと思います。</p>
<p>部会員</p>	<p>質問ですが、例えば検診を受けたとか、筋肉量が改善した場合にはどのようにポイントが付与されるのでしょうか。</p>
<p>健幸政策課</p>	<p>ポイントの付き方には2つあります。先ほど言いました、活動量計をデータ送信することによって、システムで歩数に応じたポイントが付与されるパターンと、検診を受けた後の検診結果を送信する拠点であるマイレージサポート広場 市民温水プールの2階に常時設置されています がありますので、そこに健康診断の結果と活動量計を持参することでポイントが付与されるという2パターンです。</p> <p>自動的に付与されるポイントというのは、体組成や歩数データを送信するパターンと、健診結果の紙を提出しないといけないパターンの2つになっております。</p> <p>「行きましたポイント」は付与の仕方が2つあります。</p> <p>読み取り機を地域に貸与しておりますので、その機械に端末をかざすことでポイ</p>

	<p>ントが付与されるのが1つ。もう1つは、Wi Fi 環境がなく、データの送信ができないときには、主催者側に「行きましたポイント付与一覧」というポイント用紙を渡していますので、それを参加者に渡していただき、参加者は端末と用紙を持って、マイレージサポート広場でポイントを付与してもらうというものです。</p>
部会員	<p>つまり、歩数計以外のポイント付与については、自分で作業をしないとイケないということですね。</p>
健幸政策課	<p>そうですね。電子で読み取るだけのものと、検診結果のように紙がないと把握できないポイントがあります。</p>
副部会長	<p>それが今後の課題ですかね。健幸マイレージ以外のところでのポイントの付与について…</p>
第1層 Co	<p>紙等が不要で付与できるものと考えていきたいと考えています。 それでは、ご意見は他にないということなので、健幸マイレージに通いの場をメニューに加えさせていただくことについて、皆様ご了承いただいたということでしょうか。また、健幸政策課と協議させていただきまして、詳細が決まりましたらご報告させていただきます。</p>
副部会長	<p>それでは、協議事項「ポイント制度について」は以上ということで、続きまして「ポイント制度以外の人材確保について」になります。ご説明をお願いします。</p>
第1層 Co	<p>それでは、お手元にございます資料1 - 3「お尋ね3 ボランティアポイント制度以外での人材確保について」をご覧くださいませようよろしくお願いいたします。 皆様からご意見をいただきまして、大まかな項目でまとめさせていただきました。申し上げますと、「1. 広報活動・きっかけづくり」、「2. 人とのつながり」、「3. 担い手養成研修の活用等」、「4. 教育機関等への働きかけ」、「5. 活動団体に対する支援」、「6. 既存のもの活用」、「7. 有償ボランティア」、「8. 第2層生活支援コーディネーターの増員」、「9. 社会福祉協議会での人材確保の取組み」について、前回皆様と協議させていただきました。 ボランティアポイント制度以外に人材確保に必要であると思われるものがございましたら、ご意見をいただければと思います。</p>
副部会長	<p>この資料1 - 3は、前回各部会員から出た意見をまとめたものとなっています。人材確保について、ご意見がある方はいらっしゃいますか。</p>
部会員	<p>資料1 - 3について、各部会員から出た意見をまとめたということですが、事務局のほうでもう少し整理していただいたらどうですかね。 例えば「広報活動・きっかけづくり」で「SNS等の新たな媒体の活用が必要。」と</p>

いうところを、もう少し整理していただきたいのが1点。それと、市の参画協働課で、同じような市の地域活動に、「どうやったら皆来てくれるかな」というような、審議会をされています。実は昨日、審議会があったので傍聴したのですが、その辺が市との連携ができていないということです。同じようなことをやっているわけですね。参画協働課でも地域活動をどうすれば活発化できるかを検討し、介護保険課で地域福祉活動・ボランティア活動について検討すると、被っているところがありますので、その辺の動きを皆様にご紹介してみたいと思います。

今年度はあと何回協議会を開催するかわからないのですが、ある程度の意見が出ていますから、事務局のほうで他市の状況も見ながら深く掘り下げていただいて、整理していただけたら議論しやすいのかなという気がします。

どれもやりたい、やりたい…ばかりなんですよね。私から見たら。

そしたら今度、財源があって必要なものが出てくるなら、それが来年度はどうなるかという部分もあるような気がするんですね。これで議論するというのは、あちこち行き過ぎるのかなという気はしているんですけど、ただ、もう1、2回開催する余裕があるのかは分かりませんが。

部会員

私も今の意見に賛成で、重複する部分があるんですが、この人手、人材確保というのは、どの地域でも必要であって、介護予防関係や、移動手段の確保ということで、本当に人手が足りていない。ただ、我々も苦労しているところではあるのですが、「やってみたいけれど、きっかけが見つからない」という方が本当に多いと思います。そのあたりをどうするかということが次第の主なポイントだと思います。

先日、参画協働課の方が来られて、その件についていろいろと事業所の方と話しました。そういった、片や参画協働課の話合いをして、介護保険課でこういう話し合いをすとか、さまざまやっているということで、「横のつながりはどうなのかな。」というところが一番お願いしたいところです。

例えば市長へ、直轄の人手確保についてのチームを作ってもらえるのか、その辺りをできれば、市長にお伝え願えたらなと思う次第です。

部会員

重複しますが、「人材確保について必要と思われることをご記入ください。」ということでしたので、みなさん必要と思われることを自分なりに書かれたと思います。

書かれたことの全てをやれると、すごく良いと思うのですが、先ほど部会員がおっしゃったみたいに、もう少しまとめていただけたらというのが1つ。もう1つとして、現実的にやれることを出してもらったほうが、やれることの中でどれが1番効果的かなという議論が進むと思います。この中から「私たちがやりたいこと」というテーマで議論を進めていくと、結論が出たけれど、できません、ということになりかねないと思います。

事務局

他部署との連携について、ご指摘を頂戴しているところですが、確かに、地域活動に関する議論というのが、様々な場面でされておりまして、例えば参画協働課や地域福祉課との関係でもあるかと思っています。

それだけ大きな課題であるからこそ、様々な部署がどのようにアプローチをしていけばいいかということで、取り組みを考えているところです。そういった面で、それぞれの部署の役割分担というのを考えなければならないと思っているところでして、確かに大きな話なのですが、大きな舞台で話をすれば解決するかという、そういう面もあるでしょうし、そうでないところもあると思います。

では、この場で何を話し合っていたかと申しますと、やはり介護保険制度の中の生活支援体制整備という部分が、ここで話し合いをしていただくべき内容かと思えます。

さきほど、専門的なサービスの代替ではないというご意見もありましたが、そういう面がないわけでもないというところもありますので、その専門的なサービスではカバーできない高齢者支援の部分を中心に地域の支え合いでカバーしていくかということが、おそらく生活支援体制整備の目指すべきところかと思えますので、そういった面での人材確保や、どのような支援やサービスが必要で、どの地域がその支援やサービスが不足していて、どのように作り上げていかないといけないかといった部分の話し合いをしていただければと思っておりますので、その中でやはり、全市的な対応が必要だという課題が出てきた場合は、参画協働課とか地域福祉課などの各部門との連携の中で、新たなアプローチなり、解決策を検討していくという進め方ができればと考えておりますので、今回ボランティアポイント制度以外の方法ということで皆様方からたくさんのご意見をいただきました。

一応、カテゴリーごとに整理をさせていただいているつもりではございますので、ご自身が出された意見以外の意見を見ていただいて、「どのように感じられたか。」といったことや、「この部分についてより深く検討していくべきではないか。」といったようなご意見を頂戴できれば、事務局のほうでも他市の事例等を調べてご報告させていただければと思っておりますので、よろしく申し上げます。

部会員

ということは、今日、人材確保やボランティアの人材発掘については、結構話に出ていたのですが、どちらかというと先に、何がこの川西で不足しているのかというのを見定めないと、人だけ集めて「何してもらおうの。」という話になりかねないので、先に川西で困り事として出ている情報とかデータを整理していただいて、それを解決するために、どのような人材や手段が必要で、それをしてもらうために、「こういう人が必要ですよ。」というような話をしたほうがいいという解釈で間違っていないですか。

事務局

ご指摘のとおりだと思います。

部会員

ということは、次回までに地域ケア会議等で上がってきている政策提言に繋がるようなものや、各事業所や団体にアンケート等が出てきた困りごと、また市民の意見といったところで、「こういうところで不足があるよ。」とまとめたものを、次回出していただいて、それをこの会議で、「どれを優先的にやっていきましょうか。」という話をしたほうがいいですね。意見のような質問のような何か変な感じになり、す

<p>副部会長</p>	<p>みません。</p> <p>今まで様々なご意見をいただいておりますが、この生活支援体制整備部会で何を議論していかないといけないのかを、まずまとめていただくということでご意見いただいておりますので、ボランティア制度の人材不足についてのご質問なり、ご意見をいただいたものをまとめていただいて、次回の議題に上げていただきたいと思います。</p> <p>それに伴って、人材不足と言われますので、こちらも併せて検討していきたいなと思っています。よろしくお願いします。</p>
<p>第1層 Co</p>	<p>先ほどの部会員のお話はよく解りました。</p> <p>ただ「困りごと」とか、「どういうものが」となると幅広くなってしまうので、それをまとめて1つの内容を探り出していくのも大変ですので、例えば何に人手が足りていないのかを調べるということによろしいでしょうか。</p>
<p>部会員</p>	<p>それは中央地域包括支援センターがまとめられていると思います。</p>
<p>部会員</p>	<p>地域課題の集約は、中央地域包括でさせていただきます。</p> <p>前年度から始めたので、地域ケアの個別会議は多くありませんが 年間50件ほどなのでもっと推進しないといけませんが その中で出てきているものに関しては、ある程度のカテゴリーで分けました。</p> <p>基本的に認知症の会議が多く、地域ケアの個別会議の中のカテゴリーというよりは、各地域包括が「総合相談」という形で受けさせていた中での、地域の課題や数値化できないような地域課題の抽出はさせていただきます。</p> <p>その辺りのことに関しては、意見の1つとして「地域包括の課題」ということで出させていただきますが、そういう形であれば、ある程度地域包括としては地域ケア会議の中の政策提言という形の流れにすることは可能です。</p> <p>なので、今回、地域包括がボランティア制度に期待するものが何なのかというと、「介護予防のこと」と、「ちょっとした困り事に対する支援ができる地域の繋がりをつくること」の2つだなと私自身が感じていて、地域のちょっとした困りごとに対しての地域の繋がりとか支援という部分がきっと、ボランティア的な地域の方との助け合い、ボランティアメニューとして何を求められているのかということにも、多分繋がってくるのだろうなと感じています。</p> <p>今回出しているのが1年前位の話だと思うので、もう一度カテゴリーを整理して、地域包括が感じている課題みたいなことを出すことは可能だと思います。</p>
<p>部会員</p>	<p>そこを悩み事と擦り合わせていただくと、多分そんなに莫大な量にならないと思います。</p>
<p>部会員</p>	<p>毎回、第2層協議体の報告の中でしていただいている課題というのがあって、いつも持ってきてはいるのですが、「人材確保」というと漠然としているので、その中</p>

	<p>で細分化させて、それがメニューという形に繋がってきそうな気はします。</p> <p>だけど、そういう集約をしていच्छるかどうかなると、数字で何%出るかというはわからないですけど、地域包括もその数字が出るものと出ないものがあります。</p>
<p>第1層 Co</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>第2層協議体からは、いつも課題としていただいておりますので、人材確保に繋がる課題をその中から選び出して、先ほどおっしゃっていた、地域包括から人材確保に繋がる課題というのを選び出して繋げて、皆様で協議させていただく形でよろしいですか。</p> <p>地域の課題として上がってきたものの中から、私どもが具体的に協議できるものを選びまして、1つではなく順番にでもいいですし、皆様と考えて協議をしていくというのが、このボランティアポイント制度以外での人材確保の動き方としてさせていただくということよろしいですか。</p>
<p>部会員</p>	<p>もしかしたら、その出た課題の結果の解決方法から、ボランティアポイント制度のところに戻るかもしれないので、ここはやってみないとわからないと思います。</p>
<p>副部長</p>	<p>他にご意見、ご質問等はございますか。</p>
<p>部会員</p>	<p>私自身が整理できなくて困っているのですが、一度論点を整理する必要があると思います。</p> <p>事務局から様々な意見が出ていますが、それが介護保険事業でやるもの、やらないもの、他に方法があるのかという整理の仕方もあると思いますし、新たな提案もありました。なので、今回は論点を整理しないといけないと感じます。</p> <p>基本的に、人材発掘に関しては介護保険事業の枠の中で考えるということで、それは理解できますが、それ以外にも課題が挙がっています。</p> <p>ですから、それらも整理しておく必要があると思います。先ほどお話があったように、人が動こうと思ったら物、お金、情報と全て絡んでくることなので、ボランティアポイント制度以外の人材確保は考えていく必要があると思いますから、事務局に論点整理をしていただきたいと思います。</p>
<p>部会員</p>	<p>この部会自体が「生活支援体制整備」ということなので、地域の人材がどうしても集まらない、それに対しての課題なので、先ほどおっしゃられた地域課題のところ、どういうご要望が多いのかをちゃんと整理すれば、ある程度方向性というのが出てくるかなと思いますので、そちらを先に整理していただいて、ポイントを押さえていただかないと、我々も議論するにも漠然と「ボランティア」みたいな話になっています。</p> <p>ただ課題を集めるのが目的ではなくて、地域を支援する体制をどう作るかの部分を議論するので、何が足りてないかだけきっちり整理していただいて、次回ご報</p>

事務局	<p>告いただいたら、少し見えてくると思います。なので、もう一度整理をよろしく願いたいと思います。</p> <p>長時間に渡りまして、熱心なご意見をいただきありがとうございます。</p> <p>本日は健幸マイレージに参加していくことを決めていただいたという形で了解しておりますが、それ以外の部分で、人材確保をどのように進めていくのかというのは、一つの大きなテーマであると思います。</p> <p>それは、今までの会議の中でずっとご協議いただいていた中身や過程も、大切にしながらも、この会議自体が本来どんな役割や使命を持っているのかということも少し合わせて整理をさせていただいて、ご指摘もいただいておりますとおり、事務局のほうで論点の整理をさせていただきたいと思っております。</p> <p>そういったことを踏まえて、次回、また改めてご協議いただきたいと思っておりますので、今まで積み上げてきた議論の流れを大切にしながらも、この会そのものが本来持っている役割や使命といったことも考え合わせていただいて、これから先、何を中心に議論をしていったらいいのか、論点整理をさせていただいて、また次回に臨ませていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
副部会長	<p>他に何かございませんか。</p> <p>今、事務局からあったように、どういったことが一番の課題として取り組んでいけないといけないかをまとめていただき、議題を作成していただいて、次回の会議で議論していきますので、よろしくお願いいたしますと思います。</p> <p>他に何かございませんか。</p> <p>ないようですので、事務局から、次回についてお話をさせていただきます。</p>
事務局	<p>失礼いたします。</p> <p>「その他」のところでは次回の開催についてですが、今年度にもう1回程度開催させていただきたいというふうに考えております。</p> <p>日程につきましては、今日いただきました宿題等をまとめまして、後日お知らせさせていただきたいと考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
副部会長	<p>本日は、つたない進行ではありましたが、皆様には貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。</p> <p>それでは、本日の令和2年度川西市介護保険運営協議会生活支援体制整備部会(第8回第1層協議体兼地域ケア推進会議)は以上をもちまして閉会とします。</p> <p>どうも本日はありがとうございました。</p>